

松岡建設

道端の雑草発生防止

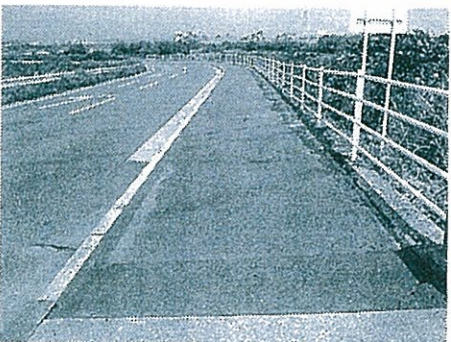
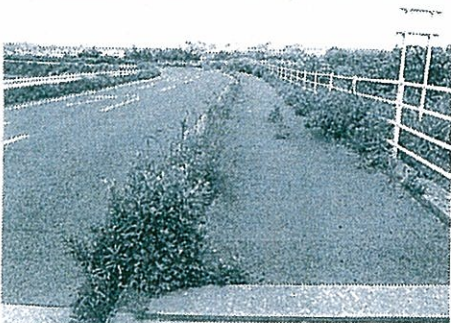
独自の工法を全国展開

代理店募集年100キロ施工へ

総合建設業の松岡建設(本社三重郡川越町亀崎新田五一ノ一、松岡伸年社長、電話059・365・2171)は、舗装道路脇の歩道と縁石などのすき間に生える雑草の発生を防止する「ウィードコート工法」事業を強化する。公共工事分野で昨年度から施工実績を積み重ねており、施工代理店を募集して同工法の全国展開をめざす。

(四日市・横井清)

同工法は、国土交通省の新技术活用システム「NETIS」に昨年登録され、特許も出願している。歩道や中央分離帯など、アスファルト舗装部と縁石などとのすき間にはえる雑草を除去後、二液混合常温硬化型ポリウレタン樹脂を塗布。その上に、ガラスビーズやケイ砂を主体としたウィードサンドを散布し



ウィードコート工法の施工前と施工後(下)の道路

り、雑草の再発生率がな形状にも対応でき、従来の同種の工法より低く長持ちする。複雑な形状にも対応でき、浸透性や接着性が高い

ため作業がしやすいなどの特徴がある。

原材料のポリウレタン樹脂は、ウレタン技研工業(本社四日市市天力須賀新町一ノ二三、石井隆來社長、電

話059・365・7165)が開発し、松岡建設の子会社、名阪商事(本社三重郡川越町南福崎二九四、松岡美代子社長、電話05

9・361・6315)

を通じて販売する。

現在、道路や港湾などの付帯工事として受注するケースが増えて

いるが、昨年度の施工総延長は九千四百九十一・八メートルだった。同社では、採算ベースの年間百キロの施工総延長を目標にしている。当

面は東海地区を中心に、全国で代理店を募

また、同工法は現在すべて作業員による施工のため、コスト面や作業スピードを向上させるため、地元メーカーと共同で作業機械の開発にも着手

している。年内にも完成させ、現場に投入する方針。